

NEW

ネ

ットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター
院長 木実谷 哲史

心理科主催

ティーチャートレーニング



第1回ティーチャートレーニングを7月30日(火)から8月1日(木)までの3日間で開催いたしました。ティーチャートレーニングは、小学校教員、支援員の先生方を対象とした、発達障害など特別なニーズのあるお子さんへの具体的な支援方法を応用行動分析的な視点から考える連続講座です。本格的な夏を迎え、厳しい暑さが続く中にもかかわらず、小学校教員、支援員、幼稚園教諭といった様々な立場の先生方がご参加くださいました。

講座は、当センターの大瀧医師による医学的背景を含めた発達障害のとらえ方についての講義から始まりました。続いて、支援方法に関する講義に先立ち、子どもたちが日頃どう感じているか、どういったサポートがわかりやすいかなどを体験する『疑似体験』を行いました。中でも手先の不器用さを体験した場面では、「よかれと思って手伝っていたことが、子どもにとってあまり嬉しくなかったかもしれない」「うまくいなくても“がんばっているね”と声をかけてもらったことがとても心に残った」などのご感想をいただき、子どもたちの目線で支援を考えていくことの大切さを確認し合いました。

その後の講義では、行動の成り立ちのメカニズムや行動の背景にある子どもの思いのとらえ方を基本として学び、その上で、上手なほめ方、伝わりやすい指示の仕方など、子どもの適切な行動を引き出していくための方法や、困った行動への対応の仕方について学びました。講義を聞くだけでなく、参加された先生同士で話し合ったり、実際に声のかけ方を練習するロールプレイなども行いました。その中で、「うちではそんな時絵カードを使っていて…」などと対応方法について情報交

換したり、対応の際の悩みをお話しされたりしていました。また対応を考えていきたい子どもの行動を事前に1つ決めて、講義で学んだ内容をその行動に当てはめて考えるホームワークも行いました。

3日目には、先生方から挙げていただいた事例について、行動の意味を踏まえて対応方法を考える「行動支援シート」を用いながら、事例検討を行いました。グループに分かれて話し合う中で、気になる行動を事前に防ぐ方法や適切な行動ができたときのほめ方など実際の支援の方法について、先生方から豊富なアイデアを出していただきました。

受講後、先生方からは、「子どもの行動に対応するためのスキルが身についた」「園に持ち帰って実践してみたい」など実際の場面で役立てていきたいといったご感想や、「またフォローアップでみなさんの実践をお聞きしたい」といったご要望をいただきました。ご参加の皆様がこの講座で得られたヒントをそれぞれの園や学校における今後の取り組みに活かしていただけることがありましたら幸いです。ご多忙の中、3日に渡りご参加くださいました先生方に心より御礼申し上げます。

ティーチャートレーニングは来年度も開催を予定しております。近隣地域の先生方のご期待に添えるような講座にするべく、スタッフ一同励んでいきたいと思っております。

なお、保護者向けの連続講座である『ペアレントトレーニング』も年に2回開催しておりますので、詳しくは掲示やHPをご覧ください。

(心理判定員 館花 佳奈子)



ティーチャートレーニング(講義)の様子



ティーチャートレーニング(グループワーク)の様子

新規事業

作業療法科主催 **G-トレーニング**

発達支援センターセブクロバーG-トレーニングでは、運動にまつわる不器用さや困り感、苦手意識のある、通常級に在籍する1～3年生のお子さんを対象に行っています。G-トレーニングは、課題が出来るようになることが目的ではありません。主に基礎的な運動を通して、苦手な気持ちを減らし、体を動かすことの楽しさ、出来たことへの達成感や自信を少しでも持って、課題に取り組めるような指導をしています。

活動内容は、マット運動、縄跳び、鉄棒、ボール、跳び箱、サーキットで、この中から毎回1～2の活動とゲームを行っています。活動時間は1時間30分で、活動期間は前期(6月～10月)と後期(11月～2月)に分かれています。定員(15名)に達するまでは随時募集しています。

現在、9名の元気なお子さん達が参加しています。みなさん、運動が苦手なお子さん達です。学校では体育の授業になかなか入れないお子さんも、G-トレーニングでは積極的な姿や一生懸命頑

張る様子が見られ、出来た時にはとびっきりの笑顔を見せてくれています。また、自然とお友達を思いやるような関わりも見られ始めたりしています。みんな汗だくになって走り回り、“苦手”という課題にも真剣に取り組んでくれています。時には失敗したり、時にはちょっとふざけて怒られたりしても、毎回活動を楽しみにしてくれているようです。私たちも、お子さん達に毎回会えるのを楽しみにしており、お子さん達から笑顔や元気、パワーをもらっています。始まったばかりのG-トレーニングですが、お子さん達の様子を見ながらこれからも面白く楽しい活動を一緒に行っていきたいと思っています。

(作業療法士 高橋 美雪)

* G-トレーニングの「G」はgymnastic(英:体操、体育)の頭文字です。



準備体操の様子



鉄棒の様子



連載「行動はメッセージ～気づいてよ、僕たちの気持ち～」 その3 不適切な行動で良い結果を与えない～計画的無視～

前回は、教室で先生に問題を出された時に席を立てて挙手をし、「ハイ、ハイ、ハイ！」と大きな声を上げる子どもを例として挙げ、大人の都合や優しい気持ちから子どもを指名してしまうことで、「席を立てて大きな声を出せば、先生は僕を当てられる」という誤学習のパターンが成立し、子どもは同じパターンを繰り返してしまうこととお話しました。

ではこのような時、どう対応すればよいのでしょうか。答えは、「席を立てて大きな声を上げる」という注目要求(当てて欲しい気持ち)行動に対して、無視をすることで良い結果(当てて欲しい気持ち)を与えない、です。でも、子どもの行動全てを無視するのではなく、子どもの不適切な行動(ここでは「席を立てて大きな声を上げる」ですね)のみを無視することを肝に銘じておきます。応用行動分析では、これを『計画的無視』または『消去』と呼びます。つまり、子どもの存在を無視するのではなく、子どもの不適切な行動だけを無視するのです。

最近、園や学校の先生方もたくさん勉強されています。子どもが不適切な行動で良い結果を得ようとした際には、計画的無視を行うことで対応すればよい、と理解している先生方も増えてきました。でも、実際に計画的無視をしても、不適切な行動を消去できないばかりか、ますます行動がひどくなって困っている、といった声も多く聞かれます。それはなぜでしょうか？

残念ながら、計画的無視はすぐに不適切な行動を消去できるテクニックではありません。子どもたちの不適切な行動は、学習により形成されたものですので、子どもたちは自分にとって良い結果を得ようと、更に望ましくない行動をレベルアップさせ、計画的無視に抗おうとします。この場合、子どもたちは「もっと大きな声を出さないと」「もっと先生に見えるように前に出ていかないと」と行動をエスカレートさせると考えてください。『消去(=計画的無視)』に抵抗しようと、子どもたちが行動の強度を強めることを『消去抵抗』と言います。大抵の先生方は、不適切な行動の強度が上がると、「このやり方ではよくないのかな？」と考えて、今までやっていた計画的無視を中断して、また子どもたちの不適切な行動の後に良い結果を与えてしまいます。そうすると、子どもたちは更にエスカレートした不適切な行動で、自己の要求を繰り返し訴えるようになってしまいうわけです。子どもたちの不適切な行動の強度を強めているのは、実は大人の中途半端な対応によるものがほとんどなの



です。計画的無視は、一度始めたら決して中断してはいけません。

この他にも計画的無視を成功させるためのポイントがありますので、また次回に詳しくお話しします。

(心理判定員 山本 秀二)

6月9日実施 就学に向けて 情報交換会

去る6月9日、多摩市教育委員会の協力を得て、恒例の多摩市就学前情報交換会を開催しました。毎年1回開催し、今年で7回目になります。多摩市内の特別支援に携わる教育関係者、教員の先生方に多摩市の就学相談や特別支援教育の実態、先輩保護者に就学相談や学校見学等の体験をお話いただき、当センターの医師からは就学活動を行う時のアドバイスをさせていただきました。事前アンケートの質問を盛り込んだ質疑応答をパネルディスカッション形式で行い、最後は小ブースで自由に話し合いました。

多摩市及び近隣の市から23組37名の保護者と、関係者5名の参加がありました。参加された方々からは、色々な意見が聞けて参考になった、就学へのとりかかりになった、見通しが持てた、前向きに考えられるようになった等のご感想をいただきました。もっと色々な形で情報を提供して欲しい、保育士も学べる機会を作って欲しい等のご意見も寄せられました。

この会は、ST科主催の年長児の集団指導に参加されていた一人の保護者の方の「就学に関する相談の場を作って欲しい」という声から始まりました。開始当初は保護者だけの集まりでしたが、保護者の要望に応える形で教育関係者にもご参加いただくようになりました。保護者が様々な立場から総合的な情報を得て、自発的に就学に関して考え、行動するためのサポートができればという思いで継続してきました。これまで貴重な体験談をありのままに語ってくださったお母様方に、心から感謝しています。残念ですが諸事情により、来年度からは教育関係者をお呼びできなくなります。今では多摩市教育委員会が主催して毎年5月に就学ガイダンスを行っており、教育行政の情報を収集する大事な機会ですので、当センターでも宣伝し周知に協力していきたいと思っております。

なお、当センターでは9月に先輩保護者を囲んで、就学に関する懇談会を開催します。就学は保護者とお子さんにとってとても大きなライフイベントであり、ストレスを受けやすい時期です。当センターにはたくさんの就学前のお子さんが通って来られています。お子さん一人ひとりが、楽しい小学校生活のスタートを切れることを願って、療育センターとしてできるサポートを、これからも実践していきたいと思っております。

(言語聴覚士 武内 典恵)



6/9 就学前情報交換会の様子

お子さんがよろこぶ 家族支援プロジェクト「ひだまり」 就学のために

～毎日が楽しい学校生活を目指して～

9月25日(水) 至 島田療育センター 厚生棟

第1部 (小学校むけ) 10～11時

第2部 (中学校むけ) 14～16時

参加費：各部 1人500円



スヌーズレン講習会・勉強会

スヌーズレンとは、1970年代半ばにオランダで始まった重い知的障害のある方の主体的な活動を支援する考え方や実際の活動の総称です。重い知的障害のある方は感覚に直接訴える刺激を通して外界を知り、楽しむという見解から感覚を刺激する様々なものに注目して、障害のある方の自発性とペースを大切に活動し、支援者は体験を共有します。

島田療育センターでは、入所利用者様が持っている力を十分に発揮して自分の時間を楽しんでいただきたいという考えから、1989年よりスヌーズレンに準じた活動を開始しました。活動を続けるとスヌーズレンは重い知的障害のある方にだけでなく、ありのままの自分が受け入れられる貴重な体験であると分かりました。当センターでのスヌーズレンは、入所利用者様の日中活動、地域の利用者様のスヌーズレン体験と他機関支援者受け講習会、年1、2回の職員向け勉強会を実施しております。



ボールプール(スヌーズレン室)

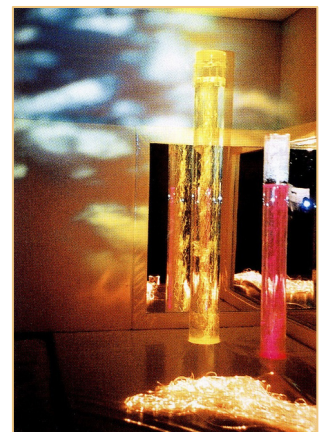
平成24年度の職員向け

平成24年度の職員向け

勉強会では、スヌーズレンスタッフが参加した外部研修の情報を伝達しました。17名の参加があり、スヌーズレンで中軸に据えている感覚についての解説が分かり易く整理して伝えられて良かったとの感想をいただきました。

「五感」には視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚がありますが、自覚にくい「3つの感覚」である触覚、固有覚(運動感覚、位置感覚、重量感覚、抵抗感覚)、前庭覚(脊髄系と関連して筋肉の緊張状態を調整する働き、動眼系と関連して回転後の眼振を作る働き、自律神経系と関連して交感神経と副交感神経のバランスを調整する働き)は利用者様にとっては安心して気持ちよく過ごすために重要です。利用者様の表情、視線、動作、発声、姿勢などに常に注意を向け、『心の声』に耳を傾け、利用者様が主役となる時間に寄り添っていきスヌーズレンでありたいと思っております。

(支援部生活支援室 鈴木清子)



バブルユニット(上)・サイドグロー(下)



9月6日、今年も多くの方々のご協力・ご寄付のもと、わいわいまつりを開催させていただくことができました。ありがとうございました。

おしらせ

※ 今後島田療育センター（多摩）で実施予定のイベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

島田療育センター 福祉用具情報交換会

くつろぎフェスタ 2013

- 日時：(H25)11/17(日) 10～16時
- 入場料：ひと家族 100円 (資料代)
- 内容：今回で第3回目となる「くつろぎフェスタ」は、主に多摩地区にお住まいの方を対象にしたミニ福祉機器展です。どなたでもお気軽にお越しください。

地域療育等支援事業のご案内

- ①外来療育等支援事業(療育相談)
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
- ②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
- ③訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

費用は 無料です。

窓口は『地域連携情報室』

Tel.042-374-2101 (直通)

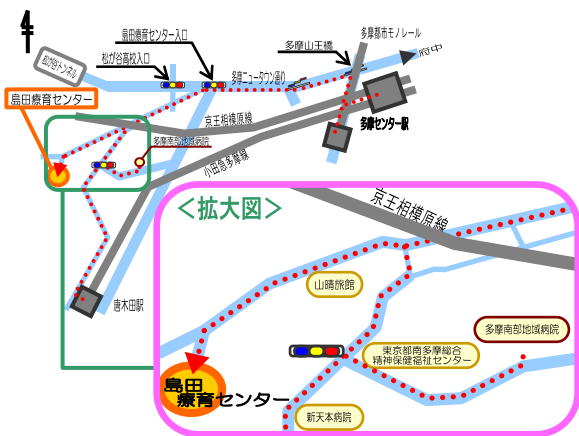
親子で楽しい音楽療法

- 対象者： 重度重複障害をお持ちで、自立歩行が難しい就学前のお子さんと保護者の方
- 日時：(H25)10/24、11/28、12/26、(H26)1/23、2/27
- 時間：10～11時
- 定員：10名 (定員になり次第締切・1回ごとの申込)
- 参加費：ひと家族1回 1,000円 (税込)
- 内容：お子さんとゆったりと関わられるスペースを用意して、音遊びをしながら心とからだを育みます。楽器に触れようとして、いつもと違う表情が見られたり、エエッと不思議な発見があるかも知れません。

OT講習会

- 対象者： 保護者、療育関係の方
- 日時：(H26)1/25(日) 10～11時
- 内容：発達障害のあるお子さんの『体の発達』について、OT視点のお話をベースに、体の発達につながる遊びや家庭での取り組み等もご紹介する予定です。

編集後記



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

当センターには真珠で有名な(株)ミキモト様から寄贈されたモミの木があります。この木は2002年群馬県嬬恋村から根付きで運ばれ、25本目のジャンボクリスマスツリーとして銀座ミキモト本店前に飾られた後、12月26日の朝、当センターに届けられました。軽井沢育ちには島田の土がびったり、と当初から言われていましたが、ミキモト様が寄贈されたモミの木のうち、元気なのは唯一この木だけだそうです。今年の冬もキラキラのライトと共にみんなの目を楽しませてくれそうです。(市川)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話：042-374-2071 (代表)

E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp